

アクセスMap



◎ 地下鉄

- 都営大江戸線 ② 若松河田駅 下車(若松口より徒歩5分)
- ③ 牛込柳町駅 下車(西口より徒歩5分)
- 都営新宿線 ④ 曙橋駅 下車(A2出口より徒歩8分)

◎ 都営バス

- 宿74系統 ① 新宿駅西口 → 東京女子医大前
- 宿75系統 ① 新宿駅西口 → 東京女子医大前 ← ⑧ 四谷駅前 ← 三宅坂
- 早81系統 早大正面 → ⑤ 馬場下町(早稲田駅) → 東京女子医大前 ← ⑥ 四谷三丁目 ← 千駄ヶ谷駅前 ← 原宿前 ← 渋谷駅東口
- 高71系統 ⑦ 高田馬場駅前 → 東京女子医大前 ← ⑨ 市ヶ谷駅前 ← 九段下

病院構内Map



病院見学について

ご興味のある診療科や将来入局を希望される診療科の担当者にお問い合わせください。連絡先は、卒後臨床研修センターのホームページに掲載しています。病院見学の際、卒後臨床研修センターの施設見学も希望される場合は、別途、卒後臨床研修センターまでご連絡ください。

東京女子医科大学病院 卒後臨床研修センター

〒162-8666 東京都新宿区河田町8番1号(第1病棟3階)

Tel:03-3353-8112(内線20331、20332) Fax:03-5269-7825 e-mail:sotsuken.bm@twmu.ac.jp

<http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/medical-t/>

2025年度

東京女子医科大学病院

Tokyo Women's Medical University Hospital

卒後臨床研修センター



<http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/medical-t/>

臨床研修の理念と特徴

当院では、以下3点を目的にプログラムを作成しております。

- 医師法(昭和23年法律第201号)第16条の2第1項に規定する臨床研修
- 医師としての人格・全人的医療を行う態度の涵養
- 医学・医療の社会的ニーズであるプライマリケアの基本的な診療能力(知識・技能・態度)の修得

左記は、複数診療科のローテート、病棟および外来での研修を通じて修得できます。同時に、本学の専門性を活かした将来の志望臨床科を視野に入れ、一部は選択制を取り入れています。基本コース・小児科専門コース・産婦人科専門コース・外科専門コースの4つのプログラムを展開しています。

■ 病院長メッセージ

東京女子医科大学病院は、建学の精神「医学の蘊奥(うんおう)を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する」と理念「至誠と愛」のもと、1908年の開院以来、質の高い安全な医療の提供と、次代を担う医療人の育成に努めてきました。本学の理念に従って附属病院も運営され、その伝統は先人から脈々と引き継がれ現在に至っています。

最新の内科治療のほか、手術件数は年間8,000件を超え、低侵襲手術やロボットを用いた手術件数も多く高度な医療を提供しています。高度で適切な治療を提供するために約50の診療科があります。

安心と安全を最優先して、患者さんファーストで多職種によるチーム医療を実践しています。日常診療で頻りに遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリケアの基本的な診療能力(態度、技能、知識)を身につけ、全人的な幅広い医療を行うと共に、将来どの分野に進もうとも応用の利く基本的な診療能力をしっかり身に付けることが可能です。2年間の研修終了後、研修医は各診療科の専攻医に応募し、さらに専門的な臨床研修を継続することができます。我々の病院の一員として新しい研修生活をお迎えになる研修医を歓迎いたします。



病院長 肥塚直美

■ 卒後臨床研修センター長メッセージ

当院では、医師としての礎を築くために適した初期臨床研修プログラムを用意しています。基本コースのほか、小児科、産婦人科、外科の各専門コースを設定し、プライマリ・ケア、地域・救急医療をベースに general を学びたい方から専門家志向の強い方まで、多様なニーズにフレキシブルに対応できる選択研修を用意しています。また、専門コース以外でも希望する診療科を重点的に研修できるよう、柔軟なプログラム作りを心がけています。どの診療科においても、熱意に溢れた、優れた指導医が指導に当たります。メンターや学年アドバイザーによるきめ細やかな個別指導も行っています。初期研修修了後には、目標とする専門分野でのキャリアを見すえて、当院の後期臨床研修プログラムにシームレスに進むことができるばかりでなく、多様なキャリアパスにも対応できます。当院のプログラムを選んで本当に良かったと実感できるような、厳しくも暖かいセンターであり続けることをいつも心がけています。多くの方の応募を心よりお待ちしております。



卒後臨床研修センター長 石黒直子

基本理念

患者視点に立って、安全・安心な医療の実践と高度・先進な医療を提供する。

基本方針

- 誠実な慈しむ心(至誠と愛)をもって、患者視点に立った、きめ細やかで温かい心の通った医療を実践します。
- 先進医療の推進や高度医療の提供に尽力し、質の高い安全な医療を提供します。
- 医療連携をとって地域医療により一層貢献します。
- 明日を担う人間性豊かな医療人の育成をめざし、充実したカリキュラムや実践的な研修プログラムを実施します。
- 本学の特性を活かして女性医療人を育成し、働く環境を創出します。



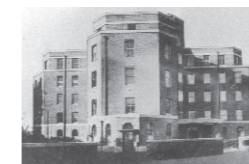
5Sの精神

沿革

- 1900年 明治33年 12月 東京女医学校創立(5日 創立記念日)
- 1904年 明治37年 9月 東京至誠医院開設
- 1908年 明治41年 12月 附属病院開設許可
- 1930年 昭和 5年 12月 附属病院竣工
- 1936年 昭和11年 11月 第二病棟竣工
- 1952年 昭和27年 4月 新制東京女子医科大学発足
- 1965年 昭和40年 4月 附属日本心臓血圧研究所竣工
- 1967年 昭和42年 10月 神経精神科病棟竣工
- 12月 附属消化器病センター竣工
- 1971年 昭和46年 10月 附属脳神経センター竣工
- 1978年 昭和53年 3月 中央病棟竣工
- 1979年 昭和54年 4月 腎臓病総合医療センター開設
- 1980年 昭和55年 7月 東病棟竣工
- 1984年 昭和59年 4月 内分泌疾患総合医療センター開設
- 9月 母子総合医療センター開設
- 1987年 昭和62年 3月 糖尿病センター竣工
- 1989年 平成 元年 4月 救命救急センター開設
- 1990年 平成 2年 10月 呼吸器センター開設
- 2003年 平成15年 3月 総合外来センター竣工
- 2009年 平成21年 12月 第1病棟竣工
- 2016年 平成28年 9月 教育・研究棟竣工
- 2020年 令和 2年 2月 彌生記念教育棟竣工



東京女子医学専門学校正門 1917(大正6)年



東京女医学校附属病院 1930(昭和5)年

〈東京女子医科大学史料室所蔵〉



吉岡彌生肖像 1941(昭和16)年

Contents

- 1 病院長メッセージ／ 卒後臨床研修センター長メッセージ
- 2 理念／沿革
- 3 研修コース・ローテーション紹介
- 5 専門コース・ローテーション紹介
- 8 研修医からのメッセージ
- 9 選択研修先紹介
- 13 協力型臨床研修病院・ 研修協力施設紹介
- 14 施設
- 15 指導体制
- 16 後期研修
- 17 各種データ

研修コース・ローテーション紹介

多様なコース制と特色あるローテーションの中で
基本手技を修得し夢を構築する



2年間の初期臨床研修概略

医師への第一歩を踏み出す実践の場が2年間の初期臨床研修です。
2年間に3つの段階「基礎研修」「必修研修」「選択研修」に分け、基本的な診療技術研修から専門領域の研修までスムーズなステップアップを図ります。



全ての研修プログラムで
内科6ヵ月以上、救急部門3ヵ月以上、外科・精神科・産婦人科・小児科・
一般外来・地域医療の各1ヵ月以上の必修研修が義務付けられています。

基礎研修概要

基礎研修期間では、オリエンテーションで医師の心構えを学んだり基本手技の修得など、円滑に研修を実施できるようプログラムを組んでいます。それぞれの志に向かって切磋琢磨する、良き仲間に出会えるのも、この基礎研修期間です。また、将来専門とする診療科を最初に研修することで、将来像を見据えた研修を行うことができます。

必修研修概要

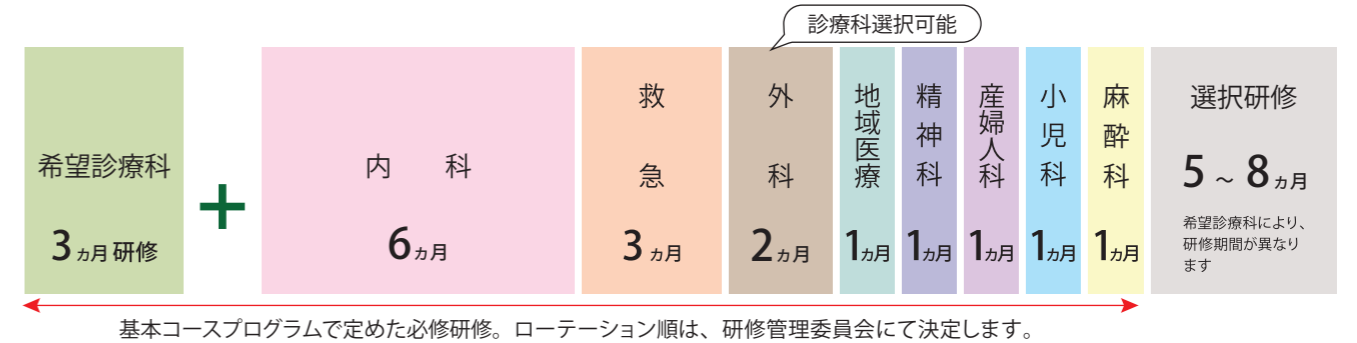
日常的な診療で頻りに遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、必修研修を設けています。医療の現場で実際の診療に立ち会い、多くの症例に触れながら、医師としての知識や技能を修得することを目標としています。チーム医療の一員となり、各診療科で良き上級医や指導医と巡り会うことは、医師人生の糧となるでしょう。

選択研修概要

到達目標を達することができた研修医は、将来の専門領域に向けて当該診療科や関連診療科の研修を進めることができます。研修の充実を図るため、診療科を自由に選択することが可能です。

●基本コース・パターン

1年次に研修したい希望診療科の他に、外科必修の研修診療科を選択することができます。選択した希望診療科によって、選択研修の期間が異なります。希望診療科の研修時期を含めローテーション順は、研修管理委員会にて決定します。当院指定の研修施設にて、必修研修を行うことも可能です。（年間合計10名まで、最長6ヵ月）2年次に研修する必修研修は当院だけではなく、足立医療センターでの研修となる場合があります。地域医療研修時に、一般外来研修を並行して行います。



基本コースのローテーション例

希望診療科に「内科系」を選択した場合



希望診療科に「外科系」を選択した場合



専門コース・ローテーション紹介



●小児科専門コース・パターン

小児科医としての知識・技能・診療姿勢の修得を目指して実践的な研修を提供

小児科医療に必要な基本的臨床能力、さらには小児全体を診る「総合診療科医」としての実践力を身に付け、病児および家族のこころの問題を常に考えた診療を実践できる小児科医の育成を目指します。

1年次				2年次					
小児科	循環器内科	内科	救急	精神科	産婦人科	小児科 選択研修系	小児外科	地域医療	選択研修
3ヵ月	3ヵ月	3ヵ月	3ヵ月	1ヵ月	1ヵ月	5ヵ月	1ヵ月	1ヵ月	3ヵ月

[その他] 循環器内科では、希望者には小児循環器疾患も経験できるよう考慮します。
救急研修の半分は小児急性期疾患の研修を行い、地域医療は地域小児研修を行います。
小児科研修と地域医療研修時に、一般外来研修を並行して行います。
小児科系選択研修では、小児科・腎臓小児科・循環器小児科・NICUの4診療科から自由に組み合わせで選択することができますが、1診療科につき最長3ヵ月までとします。

小児科専門コースについて

●佐藤 友哉 先生

小児科コースでは、一般的な小児科だけではなく、循環器・腎臓・新生児・小児外科といった幅広い分野を研修医のうちから学ぶことができます。そのため、小児科志望の方で特定の分野に興味がある方にも、まだやりたいことが決まっていない方にも、たいへん勉強になると思います。長期間小児科を学ぶことで、小児特有の考え方や、手技についても広く経験することができました。また、小児科の先生方のご指導のもと、学会発表を2回経験することができ、大変勉強になりました。

(プログラム変更に伴い、研修プログラムの内容が変更となっています)



●産婦人科専門コース・パターン

産婦人科医を育成する高度なプログラムを実施。心豊かでしなやかな医療人になるために

産婦人科医療に必要な基本的な研修を行うとともに、将来の周産期医療や骨盤外科などのサブスペシャリティの育成を目標としたプログラムを採用しています。

1年次					2年次					
産婦人科	内科	内科	内科	救急	地域医療	精神科	外科	産婦人科	小児科	選択研修
3ヵ月	2ヵ月	2ヵ月	2ヵ月	3ヵ月	1ヵ月	1ヵ月	1ヵ月	3ヵ月	1ヵ月	5ヵ月

[その他] 内科必修研修のうち、1診療科を選択することが可能です。
2年次の外科研修は、消化器・一般外科を研修します。
地域医療研修時に、地域医療研修と一般外来研修を並行して行います。

産婦人科専門コースについて

●鈴木 正人 先生

産婦人科コースを選択し、研修最初の3ヵ月間を産婦人科で行うことで、研修修了までに必要な知識や課題を早い段階で明確にすることができました。他科研修においても、産婦人科に関連する合併症例に優先的に担当させてもらうことで、常に産婦人科疾患を意識して研修に取り組むことができました。コース独自の必修診療科である新生児科・麻酔科研修は専門的な手技修得だけではなく、多角的な視野を持って治療を選択する医師になるため、非常に有意義な研修でした。産婦人科専門コースのおかげで、高いモチベーションを持って2年間の研修を行えたと考えています。

(プログラム変更に伴い、研修プログラムの内容が変更となっています)



専門コース・ローテーション紹介

● 外科専門コース・パターン

先進的なプログラムを実施し、外科医としての豊富な知識と広い視野を育む

外科専門コースでは、将来、消化器外科医・心臓血管外科医・呼吸器外科医・小児外科医・乳腺外科医・内分泌外科医の何れかの外科医になることを決めている方を対象としています。

1 年次					2 年次					
内 科	内 科	外 科	内 科	救 急	精 神 科	産 婦 人 科	小 児 科	地 域 医 療	麻 酔 科	選 外 科 研 修 系
2 ヵ 月	2 ヵ 月	3 ヵ 月	2 ヵ 月	3 ヵ 月	1 ヵ 月	1 ヵ 月	1 ヵ 月	1 ヵ 月	1 ヵ 月	7 ヵ 月

[その他] 消化器・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、内分泌外科への入局を考えている方向けのコースです。地域医療研修時に、地域医療研修と一般外来研修を並行して行います。外科系選択研修では、足立医療センター・八千代医療センター・埼玉県済生会加須病院・牛久愛和総合病院・多摩北部医療センター・中央林間病院・埼玉石心会病院など、他施設の外科領域から選択することも可能です。

外科専門コースについて

● 近藤 弘晃 先生

外科専門コースは、研修開始時より希望する外科系診療科で集中的に3ヵ月学ぶことができ、非常に濃密な時間を過ごすことができるのが特色です。さらに、将来希望する外科系に必要な知識や、周術期管理に大切な知識を内科・麻酔科・救命救急センターの研修で得ることができます。また、地域医療研修期間を他の協力施設での外科研修に変更することも可能です。Common diseaseを多く診察する機会が得られるだけでなく、外科専門医に必要な症例数の積み重ねを初期研修期間から始められます。症例数も豊富で、指導体制も充実した当院での外科専門コース研修は、非常に有意義な時間でした。(プログラム変更に伴い、研修プログラムの内容が変更となっています)



Message from Current Trainees

研修医からのメッセージ



他大学
出身

Message 01

志望理由について

“将来につながる豊富な人間関係を医師として大切にしたい”

● 杉本 圭先生

私が、女子医大を研修先として選んだ1番の理由は、全国各地から多くの先生が集まってくるということです。女子医大で研修を行うことで、自然と様々な所で学んだ先生方の教えることができ、医師として視野を広げるにはとても素晴らしい環境です。また、同期が多いということも魅力の1つでした。これから医師として働いていく上で、頼りになる同期が多いことは、自分にとって大きな財産になると思います。女子医大での研修の魅力はここだけでは十分に語り尽くせません。私は、女子医大を研修先に選んで本当に良かったと思っています。是非女子医大と一緒に働きましょう！

女子医大
卒業生



Message 01

志望理由について

“多くの女性医師の活躍が決め手に。出身大学の垣根を越えて人を大事にします”

● 真壁 志帆先生

せっかくなら出身大学以外の病院に身を置いてみたいと思い、マッチング前はたくさんの病院を見学しました。その中で女子医大は、カンファレンスや勉強会が充実している、各分野のスペシャリストの先生が揃っていて将来の可能性が広がる、という印象でした。そして、多くの女性医師が、ごく自然にかつ華やかに活躍していることに魅せられ、研修先として希望しました。同期の半数は女性で女子医大卒業生が多いですが、男性の出身大学は様々ですし、研修医間はとてもフレンドリーで皆楽しく支え合う雰囲気です。他大学出身の女子学生の方も是非躊躇わず研修しに来てください。



他大学
出身

Message 02

志望理由について

“女性医師や専門性の高い指導医など、多様なロールモデルが選択したポイント”

● 佐々木 理多 先生

私は研修先を考えた時、以下の理由から、迷うことなく女子医大で行おうと思いました。まず、診療科が多彩であり、一般的な疾患から比較的稀な疾患まで、様々な症例を学ぶことです。さらに、どの診療科にもその科のエキスパートの先生がいて、熱心にご指導いただくことができます。また、ロールモデルとなる女性医師は、女性の研修医にとって大変心強い存在です。家庭との両立を前提に将来進みたい道を考えるとき、内科・外科問わず参考となる先輩方がたくさんいらっしゃいます。現在は、楽しく充実した研修生活を送っており、研修病院を選んで良かったと思っています。

選択研修先紹介

個々のキャリアパスを見据え
更に高度な専門領域を探っていく——



プログラムの概要

当院は、40におよぶ多彩な診療科で専門診療チームが外来や病棟診療を担当しています。「選択研修」においても、実践的な研修プログラムが整備されており、人間性豊かで優秀な医療人を育成するために尽力しています。「研修の充実」や「将来の専門領域への第一歩」のために、各診療科の特長をご紹介します。



呼吸器内科

Respiratory Medicine

聴診や身体所見の取り方を身につけ、X線・CT写真の読影や、超音波内視鏡なども経験できます。肺癌の遺伝子変異に対する治療や、喘息には生物学的製剤など最新の治療を経験し、呼吸器、アレルギー、肺癌など各分野を当科で修得できます。

高血圧内科

Hypertension

内分泌センターの伝統を守る教室。研究活動も活発で、世界を先導する「攻めの医療」を展開しています。研修では、内分泌系を通して全身を診療できる医師の育成を目指してきました。経験豊富な指導医が多く在籍し、研修医教育にあたります。

膠原病リウマチ内科

Rheumatology

日本最大規模を誇るリウマチ性疾患・膠原病センターの、内科病棟部門での初期研修です。難病・希少疾患はもとより、コモンな合併症（肺炎や腎盂腎炎、骨粗鬆症など）まで対象としています。アカデミックな環境と一般内科的教育を高い次元で両立させています。

呼吸器外科

Thoracic Surgery

肺癌は癌死亡原因のトップで、注目度・専門性ともに非常に高い外科です。肺はバイタルオーガンであるため、医療全般から専門領域まで幅広い修練を実践し、胸腔鏡手術を習得できます。3Dシミュレーションやロボット手術など、最新の医療技術も経験可能です。

小児外科

Pediatric Surgery

当科は都内でも有数の日本小児外科学会認定施設に認定されており、小児領域関連各科の中で高度なチーム医療を実践しています。腹腔鏡、胸腔鏡を用いた小児内視鏡外科手術が大きな特徴となっており、最新の小児内視鏡外科手術を研修することができます。

血液内科

Hematology

良性の貧血から急性白血病まで幅広い疾患を扱い、造血幹細胞移植も積極的に行っています。化学療法、感染症の基本知識習得のほか、静脈カテーテル挿入やリンパルなど手技も多く、手厚い指導医のサポートの下で様々な経験を積むことができる診療科です。

腎臓内科

Nephrology

糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、ANCA関連血管炎、慢性腎不全や透析導入などの豊富な症例を経験することで、腎疾患の病態や腎臓生理の理解を深めます。また、シャント作成や血管内カテーテル治療など、積極的に手技を学びたい方も充実した研修ができます。

循環器内科

Cardiology

わが国における循環器臨床のパイオニアとして先導的役割を果たしています。急性期から慢性期の循環・全身管理、超音波・カテーテル検査、治療などの手技を充実した指導スタッフや本邦最大規模の症例数を背景に、基本から最新の知識・技能を習得するための研修を行います。

内分泌内科

Endocrinology

内分泌内科では、種々の内分泌疾患ガイドライン作成に関わってきた経験豊富な指導医と共に、多様な内分泌疾患患者さんと真摯に向き合い、個々の患者さんにとってのより良い医療が何かを考え、それを実行できるようにするphysicianを育成する研修を行います。

形成外科

Plastic Surgery

外傷、腫瘍、先天異常などによる体表面の障害に対して、外科的手技を用いて治療を行っています。日常診療で遭遇する一般的な創傷から専門性の高い疾患まで、幅広い診療の経験が可能です。創傷治癒過程に関する基本的な知識の修得は、外科系を目指す研修医には有効です。

内分泌外科

Endocrine Surgery

甲状腺、副甲状腺、副腎、膵内分泌腺など、外科的内分泌疾患を総合的に診療する世界的にもユニークな存在で、当院を特色づける診療科の一つです。外科の基本的な手技の習得のほか、めずらしい内分泌疾患を経験することも可能です。

消化器内科

Gastroenterology

腹痛を主訴とする患者さんは日常診療で最も多く遭遇し、増加する悪性腫瘍の多くは消化器癌です。いかなる分野を志す臨床医も、消化器内科は経験・修得すべき診療科です。患者さんに信頼され、チーム医療の中心となり責任感と協調性のある医師の育成を目指しております。

脳神経内科

Neurology

脳神経内科は脳神経疾患全領域にわたる診断と治療を行います。研修の目標は神経学的所見を一人で自信をもって取ること、補助検査である髄液検査やCT・MRI検査の読影をマスターすることであり、救急で必ず遭遇する神経疾患に独力で対処できるよう指導します。

糖尿病・代謝内科

Diabetology and Metabolism

糖尿病患者さんのトータルケアを目指して設立された、世界で最大規模の糖尿病専門診療施設です。全身に高度の合併症を有する症例が多いため、選択研修では内科全領域にわたる疾患を充実した指導体制のもとに学ぶことができます。

総合診療科

Department of General Medicine

研修の場は外来と病棟であり、患者の初診から入院、退院までを担当できる貴重な機会となります。外来では診断力や患者中心力を鍛え、また病棟ではすべての医師が身に付けるべき、総合内科的ケアをまんべんなく実践できるように研修します。いかなる状況にも対応できる総合診療を指導します。

整形外科

Orthopedic Surgery

整形外科の専門は膝、股、脊椎、肩、手、足、リウマチなど多岐にわたりますが、手術をすることで患者さんのADLやQOLを劇的に改善できるのが魅力のひとつです。また、初期研修では外科系当直には必須である骨折などの外傷を経験することができます。

乳腺外科

Breast Surgery

乳癌は部位別罹患数で日本人女性の一位であり、9人に1人が生涯で罹患するとされています。乳腺外科では、手術はもちろんのこと、診断から薬物療法、終末期医療まで、幅広い診療を行なっています。チームの一員として研修医の先生方が活躍できる診療科です。

選択研修先紹介



心臓血管外科

Cardiovascular

新生児から高齢者まで治療対象として
います。大学病院の特性を生かし、人工心臓、心臓移植、カテーテル治療など先端医療を実施するとともに、臨床研究、学会発表も活発です。的確な治療により、患者さんの劇的な回復を実感できる魅力的な診療科です。

消化器・一般外科

Gastroenterology

臓器別グループによる診療がなされ、症例数、切除成績とも日本のトップレベルにあります。外科基本手技は上級医の指導のもとに研修医自ら実践でき、鏡視下手術やロボット手術などの低侵襲手術や、内視鏡検査・治療、画像診断など幅広く研修できる診療科です。

脳神経外科

Neurosurgery

脳神経外科は様々な疾患に対応しております。血管障害、悪性腫瘍、良性腫瘍、機能的疾患、小児、下垂体、脊椎、ガンナイフの各班が最新の医療を行っています。短期間の研修だからこそ、豊富な症例に基づいた密度の濃い研修を受けてください。

泌尿器科

Urology

泌尿器科は、内科的側面から外科的側面まで幅広い疾患が対象です。手術についても悪性腫瘍手術、移植手術、形成手術と多彩です。最近ではda Vinciを用いたロボット支援手術が標準的手術となりつつあります。短期間の研修中に様々な泌尿器科の知識の修練と技術の修得を目標とします。

眼科

Ophthalmology

外界からの情報の8割は視覚から得られ、眼球は小さいが精巧な器官で、小宇宙と言えます。眼科は、この眼球の病変を直接観察でき、診断から治療、治療後の経過まで見ることができ、内科、外科的な両面があります。動物眼による手術練習も積極的にを行っています。

耳鼻咽喉科

Otorhinolaryngology

めまい、呼吸困難、鼻出血、中耳炎などの救急疾患からプライマリケアに必要な知識や技術の修得を目指します。また唾液腺疾患や鼻副鼻腔疾患の内視鏡下手術、中耳疾患の内視鏡下及び顕微鏡下手術から頭頸部手術に至るまで多くの治療法を経験できます。

救命救急センター

Critical Care and Emergency Medicine

重症救急患者への初療の実践、複数科におよぶ急性期疾患、重傷外傷への適切な対応と重症症例の全身管理の理解、終末期の医療倫理の学びを目的としています。将来、緊急を要する症例や重症症例に直面した時に、戸惑うことなく対応できる医師の育成を目指します。



集中治療科

Department of Intensive Care Medicine

集中治療の使命は、重篤な急性臓器不全に対して強力かつ集中的な治療とケアを行い、臓器機能を回復させ重症患者を救うことです。集中治療科では重症患者の全身管理に必要な基本的な知識（鎮痛鎮静、循環管理、呼吸管理、ECMO）について学ぶことができます。

放射線腫瘍科

Department of Radiation Oncology

どの診療科を目指すにしても、現在ではがん治療の総合的な研修は欠かせません。放射線腫瘍科では、全身のさまざまながんを扱うため、短期間で多岐にわたる治療経験を積むことが可能です。最新の医療技術を駆使して、がんと闘う患者に希望を提供しています。

画像診断・核医学科

Department of Diagnostic Imaging and Nuclear Medicine

日常臨床では欠かせない画像診断の基礎や適応判断、読影から、数年単位での技術進歩に対応した最新まで幅広く学べる環境が揃っています。加えて当院の豊富な症例の蓄積があり、典型症例から珍しいケースまで網羅した教育・研修システムが整っています。

皮膚科

Dermatology

1日約100人の外来患者が訪れ、診療能力向上に欠かせない患者絶対数と、研究研修の対象になる多彩な疾患との遭遇に恵まれています。高い診断力を持ち、患者さんの種々の要求に対応できる「良医」の育成を目指しています。

神経精神科

Psychiatry

1948年に開設され、地域の精神医療に貢献してきた歴史もっています。精神保健福祉法に基づく専門病棟・精神科外来・精神科リエゾン診療と、幅広い臨床を実践しています。特に身体疾患合併症例への対応をはじめ、精神科リエゾンチーム、認知症ケアチームなど、総合病院における精神医療の役割を積極的に果たしています。

小児科

Pediatrics

小児総合医療の中核として、伝統の神経筋疾患診療の充実に加え、アレルギー、免疫・膠原病、内分泌代謝、消化器、小児救急などの専門分野を確立すると共に、幅広く対応できる一般小児科医（ジェネラリスト）育成に力を入れています。

腎臓小児科

Pediatric Nephrology

日本の大学病院では、唯一独立した診療科として小児腎臓病専門を標榜しています。あらゆる小児腎臓病疾患に対して、より良い治療を提供するべく、一致団結する心優しい小児科医が揃い、小児腎臓病診療に関する知識を高めるには適した研修の場です。

血液浄化療法科

Blood Purification

腎臓・血液浄化療法という専門領域における総合的医療として、年間600以上の入院症例、約60名の外来維持透析患者の診療や、知識・技能の修得が可能です。慢性腎不全の治療や透析導入はもとより、腎疾患以外の血漿交換、吸着療法などが必要な疾患においても症例が豊富で、充実した研修を送ることができます。

麻酔科

Anesthesiology

呼吸・循環などの全身管理、疼痛管理（ペインクリニック）、緩和医療などの幅広い研修が可能です。麻酔管理では、マスク換気や気管挿管などの基本的な気道確保の手技や昇圧薬などの循環系作業の使い方を身に付けることができます。

化学療法・緩和ケア科

Department of Chemotherapy and Palliative Care

様々な臓器の悪性腫瘍を対象とし、抗がん剤治療の基礎的知識や方法、治療戦略、及び診断早期から終末期までの症状コントロールや緩和ケアの手法を学ぶことが出来ます。将来、がんを扱うどの科を専攻しても必要となる基礎的知識、技術を学ぶことが出来ます。

循環器小児・成人先天性心疾患科

Pediatric and Adult Congenital Cardiology

日本で最も歴史のある循環器専門の小児科です。胎児から新生児、小児、成人に至るまでの幅広い年齢層の先天性心疾患診療を行っています。循環器疾患、一般小児科のみならずいろいろな疾患の知識の習得が可能で、学会発表も積極的に指導しています。

産婦人科

Obstetrics and Gynecology

当科は、婦人科悪性腫瘍を扱う婦人科と分娩を扱う産科、不妊治療を扱う生殖医学、更年期障害や良性婦人科疾患を扱う女性医学の4領域に分かれています。腫瘍や婦人科救急などの女性のトータルヘルスケア、高度な周産期医学の知識や技能を高める研修を行います。

母子総合医療センター

Maternal and Perinatal Center

当センターは我が国の周産期センターのパイオニアです。胎児診断、早産、先天異常、心疾患、小児外科疾患など様々な新生児疾患の診療を通じ、蘇生から急性期集中管理、さらに家族支援を含めた全人的医療を担える医師の育成を目指しています。

病理診断科

Department of Surgical Pathology

病理診断は疾患の最終診断で、ここから治療が始まります。病理診断科では、年間、組織診（生検・手術例）12,000件、細胞診8,000例を担当し、病理解剖にも参画しています。また、2019年度から本格的に始まったゲノム診療にも貢献しています。研修期間中には、基礎知識や免疫組織化学などの技術の習得に加え、学会参加や論文発表も支援します。

リハビリテーション科

Rehabilitation Medicine

ほぼ全ての診療科から依頼があり、急性期のリハビリのほか、小児・運動器・呼吸循環などの外来リハビリも行っています。チーム医療の体制で各専門治療を施行しており、リハビリの意義、処方・技術、流れや、全人的な視点での医療について学習できます。

感染症科

Infectious Diseases

臨床感染症学の基礎知識は、どの診療科においても必要な知識です。当科では、各科より血流感染症、術後創部感染など数多くの感染症に関するコンサルテーションや感染対策についての相談があり、「理論」と「実践」を直結できる教育を実践しています。内科やプライマリケアの知識の再確認や、EBMへの理解を深めるには適した診療科です。

協力型臨床研修病院・研修協力施設紹介

広い視野で臨床能力を伸ばしていく——
多彩で充実の研修協力施設

協力型臨床研修病院

	病院名	住所・HP	研修分野
1	東京女子医科大学附属足立医療センター	〒123-8558 東京都足立区江北4-33-1 https://twmu-amc.jp/index.html	内科/外科/救急部門/ 産婦人科/小児科/麻酔科
2	東京女子医科大学附属八千代医療センター	〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田477-96 http://www.twmu.ac.jp/TYMC/	内科/外科/産婦人科/ 小児科
3	埼玉県済生会加須病院	〒347-0101 埼玉県加須市上高柳1680 https://www.saikazo.org/	内科/外科/小児科
4	牛久愛和総合病院	〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896 http://www.jojinkai.com/ushiku/	内科/外科
5	東京都立多摩北部医療センター	〒189-8511 東京都東村山市青葉町1-7-1 https://www.tmhp.jp/tamahoku/	外科
6	埼玉石心会病院	〒350-1305 埼玉県狭山市入間川2-37-20 https://saitama-sekishinkai.jp/	外科

研修協力施設

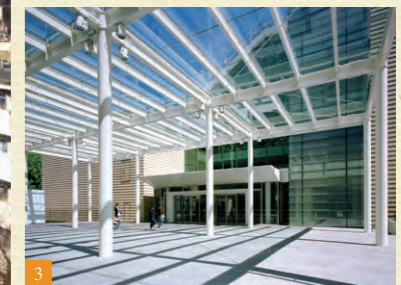
	施設名	住所	研修分野
7	湘南第一病院	〒252-0804 神奈川県藤沢市湘南台1-19-7	地域医療
8	中央林間病院	〒242-0007 神奈川県大和市中央林間4-14-18	
9	日扇会第一病院	〒152-0031 東京都目黒区中根2-10-20	
10	西新井病院	〒123-0845 東京都足立区西新井本町1-12-12	
11	圏央所沢病院	〒359-1106 埼玉県所沢市東狭山ヶ丘4-2692-1	
12	ゆみのハートクリニック	〒171-0033 東京都豊島区高田3-14-29 KDX高田馬場ビル1階	
13	椿診療所	〒111-0021 東京都台東区日本堤1-6-11	
14	河北ファミリークリニック南阿佐谷	〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-16-8	
15	ドクターゴン鎌倉診療所	〒248-0027 神奈川県鎌倉市笛田4-25-2	
16	常陸大宮済生会病院	〒319-2256 茨城県常陸大宮市田子内町3033-3	
17	土屋小児病院	〒346-0003 埼玉県久喜市久喜中央3-1-10	
18	まこと小児神経クリニック	〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-7-1 SIT西新宿ビル1階	
19	晴和病院	〒162-0851 東京都新宿区弁天町91	

施設

充実した医療環境と先端設備



1. 第1病棟、2. 中央病棟/そのほか、西病棟 A、西病棟 B、糖尿病センター、東病棟と6つの病棟を完備しています。
3. 総合外来センター/平成15年に竣工。外来業務のほか、医療サービス相談室やからだ情報館など相談施設を設置。



都会にある充実の臨床研修環境

利便性の高い都会の中心にあって、教育環境が整う院内施設群が、熱く燃える2年間の研修生活を支えます。

[院内施設]

● 卒後臨床研修センター

H26年5月より第1病棟の3Fに移転し、専用の勉強スペースと、以前は別の階に位置していた当直室を研修センター内に設置することができ、より利用しやすい環境へと変わりました。勉強スペースには、パソコンを配置し、図書館ネットワークにも接続している為、インターネットなども用いて、24時間論文や文献の検索が可能です。休憩室は、日当たりが良く、簡単なキッチンスペースもあり、テーブルを囲んで学年の垣根なく食事したり談笑したりと、くつろぐことができます。



● 図書館

図書貸出のほか、ネットワーク環境での利用もでき、研修に必要な図書・雑誌情報を24時間活用することができます。



● スキルラボ

診察、心音・呼吸音の聴診、超音波診断検査、外科手技等に関する医療機器や様々なシミュレータを備えており、診察技術・基本的な臨床技能の修練を行うことができます。また、不定期ですが、職員のBLS講習やICLS講習会、JMECC講習会なども実施しています。



[研修医療]

病院より徒歩15分圏内で、広さ17㎡~22㎡程、バス・トイレ別を条件に一般の賃貸物件を大学で契約し、希望者に寮として提供します。そのため、寮の場所は固定ではなく、事前の見学などはできません。寮費51,000円/月(共益費、家財保険料込み)、ガス・水道・光熱費などは、個々に契約していただきます。部屋により、多少レイアウトが異なりますが、希望者全員が入居できるように手配しておりますので、近隣にお住まいでない方も、安心して研修にお越しください。



敷地内には、西病棟、第1病棟、総合外来センターそれぞれに売店があり、クリーニング店や銀行のATMもあります。

● TULLY'S COFFEE

● NATURAL LAWSON



指導体制

優しく、ときには厳しく熱く指導を行う
最良の指導体制を目指して



指導医リーダー・副リーダー

診 療科には指導医リーダー、副リーダーがいます。定期開催のリーダー会に参加して研修内容についての確認を行い、指導医と研修医の橋渡しをするのが役目です。研修医アドバイザーとも連絡を取り合い、研修体制のサポートを行っています。研修医は、診療科について知りたいこと、相談したいことなど、指導医リーダーに随時連絡をとることができます。

指導医講習会

厚 生労働省認定の指導医講習会を年1回開催し、指導医の養成に努めています。2日間の講習を終えた指導医は一回り大きくなり、「明日から研修医とともに頑張ろう」と、研修医の元に戻っていきます。また、日常の勤務では接することの少ない指導医同士がディスカッションを通じて、横のつながりを深めています。

指導医フォローアップ講習会

指 導医講習会受講済の指導医を対象とし、フォローアップ講習会を随時開催しています。メンタルヘルスケア、メディカルサポートコーチング、指導困難／学習困難な場面にどう対応するか、医療安全教育についてなど、内容は多岐にわたり、多くの指導医が参加し、指導医としてのスキルを磨いています。職員であれば、どなたでも参加可能です。

Message from Advisors

研修医アドバイザーメッセージ

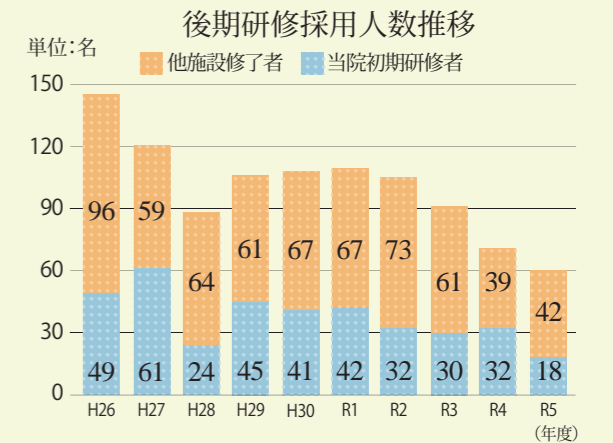
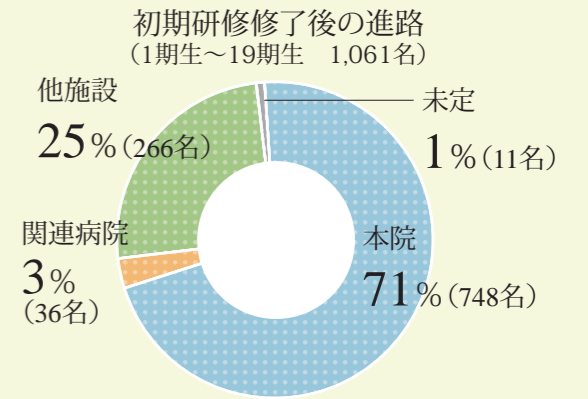
研修中の悩み、不安を気軽に相談できます。研修医の心身面を強気にサポートします

アドバイザーは、皆さんの初期臨床研修の修了までをサポートし、生じた問題に速やかに対応します。男性特有、女性ならではの問題に対応するために、作業部会委員より2名選出されます。研修中の悩み、健康上の問題、進路相談、研修遅れのサポートなどを行うとともに、研修先の指導医と密に連絡を取り合っています。また、指導医と研修医の連携がスムーズにできるよう努めています。困った際には、いつでもアドバイザーに声をかけてください。



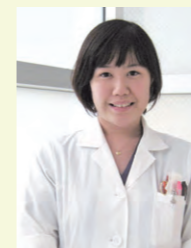
後期研修

初期臨床研修修了後は、19基本診療領域のいずれかの専門医資格を取得することが求められます。専門医資格の取得には、原則として初期臨床研修修了後3年以上の専門研修が必要となります。診療領域によっては初期臨床研修期間中に経験した症例の一部を使い申請することも可能です。当院は、全ての基本診療領域の基幹施設であり、また、専門医資格取得後は、さらに専門分化した診療領域の専門医資格取得を目指すサブスペシャルティ領域も充実しています。その為、初期臨床研修から引き続き、専門医取得に向けて後期臨床研修を行う道が開かれており、個々の目的や目標に合わせた幅広い選択肢が用意されています。



初期研修修了後、後期研修へ 後期研修医のメッセージから体感

更に高度な専門領域へ。
充実の5年間のプログラムの中で多くの症例を経験できます。



乳腺・内分泌外科
● 牧 ゆかり先生

本院での初期研修は、手技も学びつつ、プレゼンテーションをする機会も多く、患者さんの情報を簡潔に分かりやすく伝える技術や、疾患についても勉強できる為、医師としての素地を身につけることができました。初期研修を通して様々な診療科の先生方にお世話になり、他科への相談がしやすい良い環境であったことや、本院の雰囲気・人柄・各診療科のレベルの高い技術に魅力を感じ、後期研修も同病院で行うことを選択しました。

また、子供から大人まで幅広い範囲での外科的治療や内視鏡手技、高度な手術を学ぶことができると感じ、当院の第二外科に入局しました。今後の診療科を悩んでいる方や、希望の診療科がある方も、当院の初期研修で数多くの経験を通して将来の進路の幅を広げ、充実した研修が送れると思います。



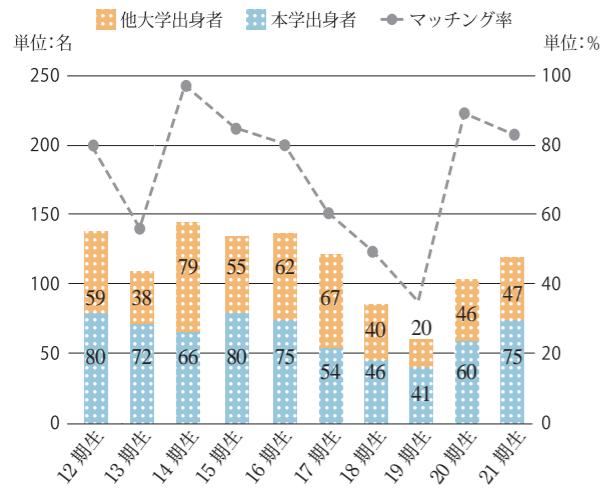
呼吸器内科
● 鎌田 碧先生

初期臨床研修の1年次は必修科目をローテートし、2年次は選択期間がほとんどでしたので、自分自身のニーズに合った研修内容をアレンジできました。私は内科医を目指していたので、選択期間は内科を中心にローテートし、それぞれの科で専門知識をもつ指導医のもと、数多くの症例を経験でき、医師としての基本的な考え方や動き方、手技などを学べ、修得できました。初期研修を通して、ローテートした各診療科で相談できる先生が増えたことや、研修同期の多くが本院での後期研修へ進むことから、自然な流れで後期研修も本院で継続することを決めました。呼吸器内科へ入局後も、学問のない自由な雰囲気の中、腫瘍・アレルギー疾患・感染症など幅広い分野を経験でき充実した日々を過ごしています。

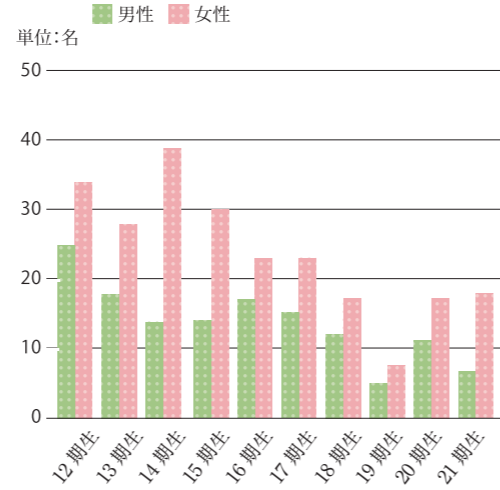


各種データ

応募状況・マッチング率の推移 <12期生～21期生>



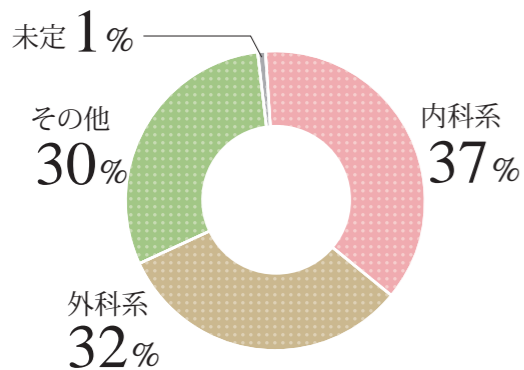
採用状況の推移 <12期生～21期生>



出身大学別人数 <1期生～21期生>

北海道大学 1名	東京医科大学 31名	藤田医科大学 8名	福岡大学 9名
札幌医科大学 1名	東京慈恵会医科大学 4名	大阪医科薬科大学 4名	大分大学 4名
旭川医科大学 2名	東邦大学 21名	関西医科大学 6名	九州大学 1名
弘前大学 4名	日本大学 17名	近畿大学 4名	久留米大学 8名
岩手医科大学 21名	日本医科大学 14名	神戸大学 1名	長崎大学 2名
東北大学 2名	横浜市立大学 2名	兵庫医科大学 4名	熊本大学 2名
秋田大学 3名	聖マリアンナ医科大学 24名	京都大学 1名	宮崎大学 1名
山形大学 5名	北里大学 14名	奈良県立医科大学 4名	鹿児島大学 4名
福島県立医科大学 3名	東海大学 19名	滋賀医科大学 1名	琉球大学 4名
筑波大学 7名	富山大学 5名	和歌山県立医科大学 4名	東国大学校 2名
獨協医科大学 23名	金沢大学 5名	岡山大学 1名	延世大学校 1名
群馬大学 16名	金沢医科大学 23名	鳥取大学 3名	大邱カトリック大学校 1名
埼玉医科大学 26名	福井大学 4名	島根大学 3名	忠北大学校 1名
千葉大学 4名	山梨大学 18名	川崎医科大学 19名	中国医科大学 4名
東京大学 4名	浜松医科大学 1名	広島大学 6名	北京大学 3名
慶應義塾大学 2名	信州大学 4名	山口大学 4名	復旦大学 2名
杏林大学 21名	岐阜大学 2名	香川大学 3名	ハンガリー国立ペーチ大学 1名
順天堂大学 1名	愛知医科大学 11名	愛媛大学 6名	
昭和大学 8名	三重大学 2名	高知大学 2名	
帝京大学 20名		佐賀大学 4名	
			本学 597名

修了時の進路 <1期生～19期生>



研修医募集スケジュール

- 6月29日(土) ● 採用説明会
- 7月13日(土) ● Web採用説明会
- 7月31日(水)、8月14日(水) ● 募集締切
- 8月10日(土)、8月24日(土) ● 採用試験(筆記・面接)
- 9月11日(水) ● 管理委員会にてマッチング登録順位決定
- 10月10日(木) ● マッチング順位登録締切
- 10月24日(木) ● マッチング決定
- 11月初旬 ● 仮採用手続書類発送

研修医の処遇

1 勤務体制と勤務時間・休暇

常勤とし、原則1週39時間とします。休暇については学校法人の決定内容に準じます。医師という職業の特殊性から柔軟性が必要で、詳細は各診療科が定める診療業務に準じていきます。

2 給与関係

給与:1年次 254,000円/月、2年次 264,000円/月(税込)
※当直2回、日直1回、時間外手当24時間相当分、住宅手当を含む。

住宅手当:単身者10,000円/月

当直手当:当直5,000円/回、日直4,000円/回

救急外来夜勤手当:5,000円/回

時間外手当:24時間を超過した場合、支給あり

通勤手当:片道1km以上の場合に原則、1ヵ月定期代を支給(上限55,000円)※状況により変動します。

3 保険関係

(1)健康保険は東京女子医科大学健康保険組合に加入。

(2)年金保険は厚生年金に加入。

(3)雇用保険、労災保険に加入。

(4)医師賠償責任保険:施設限定医師賠償責任保険の適応。(任意保険への加入を勧めます)

4 研修医寮について

家賃51,000円/月(共益費、家財保険料込み)

ガス・水道・光熱費・駐輪場・駐車場などは個々に契約。

病院より徒歩15分圏内、広さ17㎡～22㎡程、バス・トイレ別を条件に、一般の賃貸物件を大学で契約し、希望者全員に寮として提供します。

寮に入居する場合は、住宅手当と交通費は支給対象外です。

5 その他

医師法第16条の3(研修専念義務)により、業務内容・報酬の有無を問わずアルバイトは禁止。

研修医募集要項

1 募集定員

- 東京女子医科大学病院卒後臨床研修プログラムA(基本コース)募集18名
- 東京女子医科大学病院卒後臨床研修プログラムB(小児科専門コース)募集2名
- 東京女子医科大学病院卒後臨床研修プログラムC(産婦人科専門コース)募集2名
- 東京女子医科大学病院卒後臨床研修プログラムD(外科専門コース)募集2名

※募集定員に関しては厚生労働省の通達により変更となる場合があります。
※当院は医師臨床研修マッチング協会が行う、マッチング方式に参加します。

2 応募資格

原則として第119回医師国家試験合格見込み者で、医師臨床研修マッチング協会が行うマッチングに参加登録する者となります。

3 応募締め切り日

2024年8月10日(土)受験⇒2024年7月31日(水)応募締切
2024年8月24日(土)受験⇒2024年8月14日(水)応募締切

4 選考方法

2024年8月10日(土)および8月24日(土)の希望する試験日に、筆記および面接による試験を行います。卒後臨床研修管理委員会での合議を経て、病院長が合否の判定を行い、マッチングに登録します。

5 申し込み・連絡先

ホームページに、募集要項と各コース最新の研修プログラムを掲載しております。

なお、募集要項はPC作成用のデータファイルを掲載しておりますので、ダウンロードしてご利用ください。(書式は毎年変更となりますので、最新のデータで出願願います)

〒162-8666 東京都新宿区河田町8番1号(第1病棟3階)

東京女子医科大学病院 卒後臨床研修センター

Tel.03-3353-8112(内線20331,20332) Fax.03-5269-7825 e-mail:sotsuken.bm@twmu.ac.jp

<http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/medical-t/index.html>

